Takashima Toujyu Kai 会報

No. 35
2024. 5.17

# 高島藤樹会

（題字は、竹脇曇卿先生によるものです）

発　行
NPO法人　高島藤樹会
〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX　0740（32）4156
http://takashima-tojukai.com/

## 藤樹人間学塾 十二年のあゆみ

高島藤樹会　会長　田中　清行

藤樹人間学塾を始めて十二年となったのでそのあゆみを振り返ってみたい。

二〇〇八年藤樹生誕四百年祭で、映画や講演会、コンサートなど華々しいイベントが繰り広げられた。高島藤樹会も同時期に発足したが、私は、祭りの盛り上がりが一過性で終わることを危惧し久保田暁一先生と相談して、藤樹先生の教えを学ぶ学習会を立ち上げた。これが藤樹人間学塾の始まりである。

二〇一一年、最初は廣瀬童心先生らに基調講話をお願いした。その後私が講師を務めるにあたり、私でいいのだろうか、と自問したとき、西信一郎先生が『藤樹学講話』で、「大学でも中庸でも藤樹先生の解釈をみると結局同じことを言っている。どこを見てもただ一筋大道というものをいつでも説いておられる」という言葉を得て、私なりに藤樹先生の大道を探求してそれに基づいて話をすればよいのではと思った。

二〇一二年からは先生の著作『翁問答』、二〇一五年からは『大学解』、二〇一六年からは『孝経啓蒙』、二〇一八年からは『中庸解』、そして二〇二二年からは『鑑草』を道友と学んできた。テキストと現代語訳そして人間の生き方に関係する資料も加えて説明し、三十分はフリートーキングの時間をとった。最初は五、六人だった仲間が徐々に増え、現在は十人程度のメンバーで楽しく学んでいる。

紙面の都合で各著作の内容を述べられないが、『翁問答』で、正真の学問とは、志の根本に明徳を明らかにすることを据え、人としての心を師とし、物事に対応する日常生活の出来事で明徳を磨いていくことだ、とある。これを指針としている。

さて、藤樹先生の大道の教えとは何か。私は、「孝の思想」だと考える。これを分かり易く言えば、自分には父母があり、父母にはその両親があり、それを遡っていくと約三十万年前の人類の誕生、そして約三十八億年前の生命の誕生に至り、その前は、約四十六億年前の太陽の誕生、地球の誕生に至る。その前は、約百三十七億年前の宇宙の誕生に行き着く。その前はというと宇宙を造り出した大宇宙、太虚に至る。自分はその大宇宙と親子関係の延長線上でつながっている。生命の誕生から誰かが欠けても自分は存在しない。それは隣人も動物も虫も植物も同じ関係であり、兄弟姉妹のような関係である。だから親に孝行するように大宇宙を敬えば、大宇宙は親が自分を愛してくれるように愛してくださる。

宇宙から自分までは目に見える二元相対の世界である。一方、大宇宙は目に見えない一元絶対の世界である。大宇宙は目に見えないが厳然として存在する。それは私たちが生まれてから休みなく心臓を動かしていただいていることからも知ることができる。だから隣人や他の生物とは兄弟姉妹のように仲良くしなければならない。

今、世界では我欲から戦争や紛争が起こり危機に瀕している。国内でも争いごとが起こっている。また資本主義の利益追求が行き過ぎて富の争奪や偏在が起こっている。

こうした中、私たちは藤樹先生の温かくて深い、「孝の思想」を高島から全滋賀へ、全国へ、全世界へ広めるべく、これからも毎月、小さな灯を点し続けていこうと考えている。

コラム：吉田公平先生
（東洋大学名誉教授）

# 啓蒙思想家としての中江藤樹

啓蒙とは「無知蒙昧を啓（ひらく）」という意味である。啓の啓発・開発・解放のことである。だから啓蒙思想家とはその時代の人々が、旧来の考え方や生き方が、もはや意義を失っているのに、そのことに気が就かずに、惰性的にこれまでの生き方や考え方を、盲目的に信奉して、時代状況の変化から置き去りにされてしまうことにとりわけ危惧を覚え、折角に人として命を戴いたのに、其の意義を生かすこと無く、無意味な生涯に生きてしまうことになる。そのことを、自分の生き方として承知することができなくて、もがき苦しんで、遂に光明を見出し、それを同時代者たちに、訴えることになった。その一人が中江藤樹であった。時代が変わり社会状況が変わった。青天の霹靂であった。一つは戦国時代から国内戦争の無い時代になった。この場合の「国内」とは今日風な国内である。日本国内である。中江藤樹の時代の国内とは各藩内のことである。各藩における争いは主導権を争う権力闘争であって、他藩との戦争ではない。他藩との争いのことを戦国時代という。江戸時代になってその他藩という他国との戦争は無くなった。但し、江戸時代の国内戦争が文字通りに無くなるのは一六三八年の島原の乱ののちである。武器は鉄砲・槍・刀であった。人を殺すことが名誉ではなくなり栄達の手段では無くなった。平穏な日常の生活のなかで自力でいかに生きるか、が「第一義」となった。啓蒙を促したもう一つの要因は、十六・十七世紀は大航海が地球規模で通常化した時代に突入した時代であったことである。東シナ海の領域で小航海をくりかえしていた時代とは様変わりした。戦国時代が終わりを告げたのは、大航海時代にいかに対処するかが、最大の関門であった。国際貿易を展開して巨利を獲得すること、万物を創造し最後の審判を下すという、他力信仰のキリスト教にいかに対処するか。国際環境の真っ只中に引き連れ込まれた「日本」はいかに対処するか。織田信長・豊臣秀吉・徳川家康は対応策は歴然と異なる。その激変の中で中江藤樹は救いの道を模索した。それが朱子学・陽明学・藤樹学という軌跡を撮らせることになった。浄土宗、浄土真宗、禅宗、神道の世界では、「安心」を得られないと覚悟して、自力で自己の本性を発揮して「悪」の世界に陥落することを回避できると確信して、門人達と真摯に学んだのである。啓蒙思想家の典型である。

## 吉田公平先生のご紹介

【経歴】
東北大学文学部・大学院　中国学専攻。九州大学助手、東北大学助教授、広島大学教授を歴任。東洋大学文学部教授、東洋大学名誉教授（現在に至る）。現在、東京で、「心の学び　吉田塾」を月一回開催。

【専門分野および研究テーマ】
中国哲学、日本思想史。最近は、江戸時代、明治・大正時代の心学・陽明学の研究が主題。

【所属学会】
日本中国学会、日本思想史学会、東北中国学会、白山中国学会、東洋古典学研究会

【主要著書・論文】
①『陸象山と王陽明』（研文出版）、
②『陽明学が問いかけるもの』（同上）、
③『日本における陽明学』（ぺりかん社）、
④『中江藤樹心学派全集』（研文出版）、
⑤『中江藤樹の心学と会津・喜多方』（同上）、他多数。

## ひじりの声

上田　藤市郎

ロシアとウクライナの戦争に加えてイスラエルとパレスチナの紛争が再燃し、国際情勢は解決困難な課題をかかえている。他方、わが国では、政治への信頼は地に落ち、度重なる自然災害によって、家屋や仕事場を失い途方に暮れている人々がいる。莫大な資産をほしいままにする人々がいる一方で日々の生計を維持するのがやっとという家族がある。

総じて言えることは、国家にしても個人にしても、それぞれの主義主張や欲望がむき出しのままでぶつかり合い、相互理解や共感する接点が見つけられない状況が続いているように思われる。とりわけ国の内外を問わず、未来に希望の兆しが見えないことである。戦争の惨禍や貧困の中にあっても、少なくとも明日は今日よりもよくなるという期待がもてれば、人は生きる勇気が湧きおこり、力がみなぎってくるものだ。

近年、私たちは先の見えない不安に備えて、防御の姿勢が際立ってきている。防災、政治、経済、文化のあらゆる分野にその影響が見られる。今、必要なものは、高齢者、成人、若者、子供たちすべての世代が、それぞれの夢をもつことだと思う。形は問わない。夢の実現に向けて一歩踏み出せば、それが大きなエネルギーになる。今回は、一旦、学びを離れて、夢の実現を「ひじりの声」とした。

# 藤樹人間学塾…藤樹思想を学び考え実践する

塾長　田中　清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に思想を学ぶとともに自らの頭で考え、時事問題と組み合わせて皆で議論しながら思考を深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

**■一月、安曇川公民館で第百四十五回人間学塾を開きました。参加者は八名でした。**

**●テキスト**

中江藤樹著『鑑草』の余録　春風

**●今日のポイント**

・私たちの心には明徳という天下第一の宝が備わっている。そのことを正しく理解することが肝要である。これを体得して感謝して生きれば、八苦がなくなり、心常に楽しみ、何事も思いのまま、富んでも貧しくても、順境でも逆境でも関係なし。

**◇フリートーキング**

・「明徳を明らかにすることで八苦がなくなるのは、般若心経で神仏に身を任せて苦がなくなるのと同じだと感じた」

**■二月、安曇川公民館で第百四十六回人間学塾を開きました。高槻、京都、彦根、大津からの参加者を入れて十二名でした。**

**●テキスト**

中江藤樹著『鑑草』の余録　春風

**●今日のポイント**

・明徳が明らかな人、孝行の人、兄弟の情誼が細やかな人、慈悲深い人、忍辱の人は、天災（地震、風水害等）や人災（戦争、盗賊、火事、水難等）が起こってもそこから遁れられ、幸福が訪れる。

・生きとし生けるものは皆仏の心を具えている。この教えが禅の根幹となっている。ただ煩悩に覆われていてその仏の心が見えず、知ることができないでいるだけだ。

**◇フリートーキング**

・「初めて参加し、長く生きるより深く生きるという言葉が響いた。人間関係を大切にしたい」

**■三月、中江藤樹記念館で第百四十七回人間学塾を開きました。参加者は七名でした。**

**●テキスト**

中江藤樹著『鑑草』の余録　陰騭（いんしつ）（陰徳）の前半

**●今日のポイント**

・人間の究極の願い、功名、富、貴、長寿、子孫は大宇宙が差配する。自反慎独して思いやりの心を持てば、願いは叶えられる。

・人知れず善行を行い徳を積む者には必ず誰の目にも明らかなよい報いがあり、はっきりとした名誉が訪れる。

**◇フリートーキング**

・「陰騭という言葉を初めて聞いたが、以前から学んでいる利他の心が根本だと思った」

**■四月、安曇川公民館で第百四十八回人間学塾を開きました。参加者は七名でした。**

**●テキスト**

中江藤樹著『鑑草』の余録　陰騭の後半

**●今日のポイント**

・求嗣（あとつぎを求める）の方法は、陰徳を施す（仁の心を持って人を救い物をあわれむ）ことが根本である。神仏に祈り医術に頼る方法はその次に行えばよい。

・徳を「自己の最善を他者に尽くしきる」ととらえる。そうすると相手の心には感謝の心が生まれ、お互いが感謝の人間関係で結ばれることになる。これこそが宇宙の理法に適うことになる。

**◇フリートーキング**

・「藤樹先生は、女性に夫が亡くなったときに他家に嫁ぐことを戒めていたのに、なぜ自身が亡くなるときに妻を再婚させようとしたのか」→若い美人の妻の将来を慮った先生の深い愛情で、先生の教えの真髄が現れていると思う。

等の意見をいただきました。ありがとうございます。

人間学に関心のある方は是非お越しください。無料です！

**藤樹人間学塾　今後の予定**

六月一日（土）、七月六日（土）、八月三日（土）、九月十四日（土）

■時間　（原則）十五時～十七時

■場所　（原則）安曇川公民館

## 中江藤樹・心のセミナーから

# 『本気になれば人生が変わる ～想像を超える未知～』

株式会社 morich 代表取締役
ALL Round erAgent
森本　千賀子 先生

「中江藤樹・心のセミナー」は、広く市内外の皆様に藤樹先生をもっと身近に知っていただきたいと願って、フォーラム委員会の企画・運営により、例年この時期に開催してきました。

令和五年度は、三月十六日（土）の午後に新旭公民館において開催し、市内外から八十名の方が来場されました。今回の講師をお願いした森本千賀子先生は、転職エージェントとして、平成二十四年にNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演されました。高島市出身で全国的な活躍をなされています。参会者一同、終始森本先生の豊かなご経験にもとづく有意義なお話に引き込まれ、多くのことを学ぶことができました。

この講演の内容は、文字起こしをして、次号・次々号で紹介します。お楽しみにしてください。

## 令和六年「講書始め」講話から

今年の藤樹書院での「講書始め」では、青柳小学校長　地村俊彦先生がご講演されました。地村先生から当日の資料をご提供いただきましたので、以下、抜粋して紹介します。

# 「学びでつながる　仲間とつながる　地域とつながる」

青柳小学校長　地村　俊彦

## Ⅰ　はじめに

★校訓「良知に生きる」
★中江藤樹の教えに学ぶ教育
「愛敬・知行合一・明徳」
「五事を正す」
★教育目標
「自ら学び
心豊かでたくましい
子どもの育成」

## Ⅱ　中江藤樹先生　生誕の地に根ざす教育活動

### 一．藤樹デー

中江藤樹先生について学ぶ青柳小学校ならではの特色ある行事である。

二〇一一年度（平成二十三年度）から始まり、今年度で十三回目となる。四年前までは、ウォークラリーや「いもたき昼食」、芸術鑑賞など、一日かけての全校行事であったが、現在では下記の内容で半日開催（四年目）としている。

○六年生児童が藤樹先生について調べたり聞いたりして学んだことを下級生に講話する（紹介する）。
○地域の方に学校へ来ていただき、藤樹先生や地域のことについてお話をしていただく。
○五年生児童が進行と読み手を担当し、たてわり班で「藤樹かるた」を楽しむ。

今年度は、午前中を三部に構成し、第一部は「たてわり班活動（六年生による藤樹学習会と室内ゲーム）」、第二部は地域の方をお招きしての「藤樹学習」、第三部は「藤樹かるた」というプログラムで実施。六年生が、たてわり班活動を計画・運営し、五年生が「藤樹かるた」を進行するなど、子どもたちが主体となって企画・運営する行事としている。子どもたちは、藤樹先生の教えについて、自分たちが学んだことを伝えたり聞いたりすることで学びを深めている。

**【第一部】「たてわり班活動」**

全学年が色別に分かれ、各色リーダーの六年生が藤樹先生のお話や藤樹クイズなどをプレゼンテーションしたり紙芝居で紹介したりするミニ学習会を実施。六年生は下級生に藤樹先生のことを教えるために、事前に藤樹先生の経歴や教え、藤樹先生にまつわるエピソードや史跡などを調べ、「どうすればみんなに理解

藤樹先生のお話をする６年生

してもらえるか」ということを考え、工夫しながら一生懸命準備を行う。学習会後は、六年生がリーダーとなって、班の子どもたちで室内遊びを楽しんでいる。

**【児童の感想】**

・「五事を正す」の「貌、言、視、聴、思」を一年生から五年生までに説明するのが難しかったけど、先生や友達がいっしょに考えてくれたから教えることができたのかなと思いました。

・藤樹学習は動画を何回も繰り返し撮って作成したし、文章の構成も何回も考えて作りました。一年生でもわかるような文にし、聞いているみんなは頷いてくれたり、クイズにしっかり答えてくれたりしてとても嬉しかったです。

**【第二部】「藤樹学習」**

地域の方を講師にお迎えし、学年（学年部）ごとに藤樹先生に関する講話や地域の史跡についての講話をしていただく。子どもたちは藤樹先生の教えや藤樹先生ゆかりの場所について、詳しく学ぶことができた。

6年生　藤樹先生から学ぶ
「人としての生き方」

**【第三部】「藤樹かるた」**

今年度は、体育館に全校児童が一堂に会して、色別対抗で藤樹かるたを実施。保護者の方にも参観していただいた。このかるたは高島藤樹会・藤樹書院が作成されているもので、楽しく遊びながら藤樹先生の学徳や求道の生涯の一端にふれることができる。かるたのルール説明や進行などは五年生が担当し、協力しながらスムーズに運営できている。

**【児童の感想】**

・五年生がよんだみたいに、うまくかるたをよめるようになりたいです。とうじゅ先生についていっぱいべんきょうできてうれしかったです。

・藤樹かるたは、一年生から六年生まで六年間やってきてかるたの札を覚えたり、読み手の言葉が覚えられたりして楽しかったです。

藤樹かるたを楽しむ子どもたち
（R5 藤樹デーにて）

## 二．大洲小学校との姉妹校交歓会

中江藤樹先生ゆかりの地である青柳小学校と愛媛県大洲小学校の児童が、お互いの地域や学校生活について情報交換をして、両姉妹校のつながりと友情を深め合う行事として続いている。

**【これまでの経過】**

①一九五一年（昭和二十六年）
中江藤樹先生が十歳から二十七歳まで過ごされ、勉学に励まれた愛媛県大洲市立にある大洲小学校と姉妹校となる。

②一九七〇年（昭和四十五年）
五・六年生による大洲小学校との電話交歓会が始まる。

③二〇二〇年（令和二年）から
テレビ会議システムＺＯＯＭによる交歓会となり、両校四年生同士の交流となっている。一年交代で当番校が準備をし、本番では当番校児童が司会進行を務める。

**【今年度の取組】**

二〇二三年（令和五年）
十一月十日（金）

五十五回目の姉妹校交歓会を実施。青柳小学校児童は、高島市の観光スポットや地場産業、青柳小学校の様子について画像やクイズなどを交えながら紹介。大洲小学校児童からは、自然豊かな大洲市の町の様子

画面越しに話しかけている様子

や伝統的な祭り、大洲小学校の様子を紹介していただいた。

リアルタイムにつながるテレビ画面を通して、両校児童は緊張しながらもお互いの発表を通して親交を深めることができた。

**【児童の感想】**

・大洲小学校の校歌に「近江聖人」という言葉が入っていた。しかも両校の校訓も「良知に生きる」だし、校章も藤の花が使われているので、本当に姉妹のような関係だなと思いました。

## Ⅲ 家庭・地域とともにある学校づくり

～コミュニティ・スクール 子どもの学びと成長に向けた取組～

（以下、このことについての具体的な取り組みは、紙面の都合上省略させていただきます。）

## 「立志祭」から 「立志祭」を終えて

毎年、藤樹先生の誕生日である三月七日の前後に、九歳の頃の藤樹先生の思いを知り、今の自分を見つめ、自分の志を持つための足がかりとするために市内の全小学校の三年生を対象に、「立志祭」が実施されています。

この度、市内四小学校から「立志祭後の児童作文」をご提供いただきましたので、次に紹介します。ご提供ありがとうございました。

### 新旭南小学校

**立志祭**

井沼　遼雅

ぼくは立志祭で自分のしょうらいの夢について発表をしました。ちょっとだけきんちょうはしましたが、さい後までやりきれてよかったです。これからも自分の夢に向けていろいろなことをがんばりたいです。

とうじゅかるたでは八まいとれました。友だちは一枚でした。これからもとうじゅ先生のことを知りたいです。

国語の学習でもとうじゅ先生のエピソードについて調べ学習をします。そこでもとうじゅ先生のことを調べたり、調べたことをみんなに発表したいです。

**立志祭**

村山　雄飛

今日の二時間目の総合的な学習の時間に体育館で立志祭がありました。

まず、みんなの志の発表がありました。一人ずつ志やがんばることやしょう来のゆめを発表しました。今日は、さんかん日でお母さんとお父さんが来ました。ぼくのしょう来のゆめは、バスの運転手です。なぜかというとおばあちゃんとか重い荷物を持っている人を乗せたり、車いすの人を乗せたりして、人の役に立つ仕事がしたいからです。

次は、とうじゅ先生のかるたです。おうちの人といっしょにかるたをしました。ぼくと友達は三まい、ゆうしょうした友達は十一まいでした。くやしかったけど楽しかったです。

### 新旭北小学校

**立志祭を終えて**

古我　茉央

今日、生活科室で、立志祭がありました。上田先生と校長先生と三年松組のみんなと三年竹組のみんなが集まり、一人一人のゆめ発表や、校長先生のお話を聞き、上田先生からは、漢字の意味を教えていただきました。

予習で、とうじゅ記ねん館や藤樹書院に行きました。とうじゅ先生の教え五事を正すをわすれませんと、とうじゅ先生につたえたいです。立志祭のゆめ発表は、とうじゅ先生の教え、とうじゅ先生に習った事を書き、発表しました。

立志祭は、小学校生活の中で、一回なので、思い出となりました。これからも、とうじゅ先生のことを、わすれずがんばっていきたいです。

**うまくいった立志祭**

八田　桃花

今日の立志祭は、とても大せいこ

うの立志祭でした。自分てきに大きな声でも言えたし、よいしせいでもできたので、大せいこうだと思いました。なので、今日の立志祭は、こうかいのないように出来たと思いました。なぜかというと、毎日本番にむけて、がんばって練習してきたからです。練習したかいがあったなと、思いました。

あと、この勉強で、とうじゅ先生の事や、昔の北小学校の事を色いろしれてうれしかったです。ずっとずっと楽しみにしていたので、もうおわっちゃうと考えると、とても悲しいしもう一回したい気持ちでいっぱいです。でも、この三年生の立志祭の思い出をわすれずにいたいと思います。

## 青柳小学校

### 立志祭に参加して

江阪　秀羽樹

ぼくは立志祭で「孝行」の話と、藤樹先生がお母さんや周りの人を大切にしていた話を聞きました。藤樹先生は周りの人を大切にしたことで、周りの人からも大切にされました。それを聞いてぼくも家族や友だちを大切にしようと思いました。

会場の公民館では、久しぶりに会う友だちがいてうれしくなりました。みんなで仲よく藤樹カルタも楽しむことができて、とてもよい立志祭になりました。

### 立志祭に参加して

北川　結理

私が一番思い出に残っていることは、「私の志」をみんなの前で発表したことです。たくさん練習した成果を出すことができ、落ち着いて発表することができました。

私は、藤樹先生の教えの中で「五事を正す」の、貌言視聴思の教えが一番心に残っています。特に「思(思いやりのある心)」を大切にして優しい人になりたいです。

## マキノ東小学校

### 立志祭を終えて

磯野　音羽

わたしは、とうじゅ先生のお話を聞いて知行合一のことや致良知のことなどわかりました。とうじゅ先生が少年のころとっとり県の米子や、えひめ県の大ずなどいろんなところへ勉強しに行って、りっぱな人になったこともわかりました。

志の発表の時、わたしは、みんなにもちゃんとゆめがあるんだと思いました。とうじゅカルタの時はとうじゅ先生の子どもの時から大人になってとうじゅ先生にあったことがカルタをして学べました。

これからは、にがてなことなどいろんなことにちょうせんしていきたいです。

### 立志祭を終えて

藤沢　希子

藤樹先生は、一六〇八年(けいちょう十三年)三月七日に生まれました。なので三月七日にちかいときに、立志祭をするそうです。

藤樹先生は、おもいやりのある、やさしさがある、人のことをかんがえる、とってもえらい先生です。志のはっ表は、きんちょうして、石みたいに体がかたまってしまって、こえがカチカチなきがしました。わたしなりにがんばったと思います。

藤樹カルタで、一番おぼえたのが、㋝です。「ゆめにみた　ふるさとめざす　ゆきの旅」を一番におぼえました。ほかにもどんどんおぼえていきたいです。

わたしも藤樹先生みたいに心やさしい人になりたいです。そのために、これからは、いろいろな人やこまっている人をたすけたり、なにかをしてあげたり、人がよろこぶことをして、みんなのえがおをみてみたいです。

### 立志祭を終えて

平山　大喜

とうじゅ先生のお話を聞いたり、DVDを見たりして、とうじゅ先生はすごくえらくてかしこい人なのだと、分かりました。とうじゅ先生は、だれにでもやさしくてみんなから信ようされている人なのだと分かりました。

志の発表をして、ちょっとだけはずかしかったけど、ちゃんと言えてよかったです。でも、早口で言ってしまって、お母さんに笑われました。でも、ぼくはちゃんと、見に来てくれた人たちに伝わったと思いました。

とうじゅカルタをして、すごく楽しかったです。さいしょは、ゆづきさんのお母さんがいっぱい取っていて、ぼくは全ぜん取れていなかったけど、と中から、いっぱい取れて嬉しかったです。全部で十七まいで勝てました。とうじゅカルタはすごく楽しかったです。

今日の志でも発表したように、野球せん手になることがぼくのしょう来のゆめなので、これからも野球をがんばっていきたいです。家でも野球の練習をいっぱいしているので、野球が大好きだからもっと上手になりたいです。

## 藤樹書院・良知館通信⑯

### 「大相撲・尊富士の快挙」

藤樹書院　志村　洋

親が子に願う事は、そう多くない。大きな病気やケガをせず健やかに育ってくれればいい。「身体髪膚はこれを父母に受く。あえて毀傷せざるは孝の始めなり」。親から授かった身体は大切にせよとの教えです。

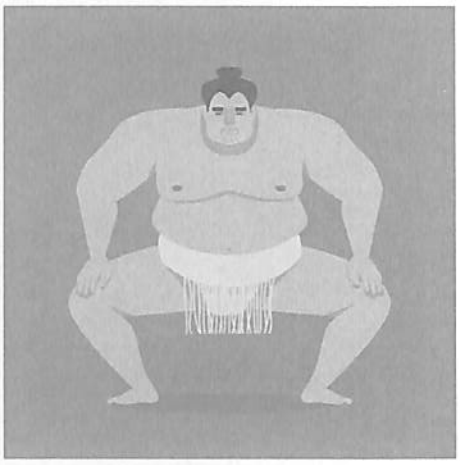
作家向田邦子さんが、この格言を引いて随筆を書いている。向田家の四人姉妹は生傷が絶えず親を心配させた。「父も母も、キズ一つ無く育てようと随分細かく気を配ってくれた。それでも、子どもは思いもかけないところで、すりむいたりこぶをつくったりした」（「身体髪膚」）

大相撲春場所。この母もどれほど息子を案じたか。百十年ぶりとなる新入幕優勝を果たした尊富士関の母・石岡桃子さん。尊富士が十四日目の取り組みで足首を負傷して緊急搬送されると「今は祈るだけ」と涙声。堪らず青森から千秋楽の大阪へ飛んできた。

歴史的偉業を成し遂げた息子を抱きしめ、うれし涙をこぼした。孝行息子の尊富士、優勝インタビューで母への感謝を。「おかげさんで、僕もそんなに大きくないですけど、土俵で勝てるように育ててくれて感謝しきれない」

親からもらった身体髪膚を鍛え上げ、初土俵から十場所の史上最速優勝を成し遂げた。まだ大銀杏を結えない、ちょんまげ力士の快挙を祝福しました。

また、最後まで優勝を争った大の里の奮闘も素晴らしかった。まだザンバラ髪の二十三歳だ。



**★大銀杏結えぬ二人が春嵐★**

横綱はじめ役力士のふがいなさが際立つ春場所でしたが、「荒れる春場所」二人の大活躍で大きく盛り上がったと思っています。

優勝後の稽古を怠らず、身体髪膚を鍛え、五月場所でも優勝戦線に勝ち残ることを願い、また、貴景勝、宇良、豪ノ山、妙義龍はじめ関西出身力士の活躍を願っています。

## 賛助会員一覧

**★新規賛助会員のご紹介**

令和六年四月末日までに、ご加入いただきました賛助会員をご紹介します。ご加入ありがとうございます。

○樽野工業 株式会社
（高島市新旭町旭）

**★既加入の賛助会員一覧**

ご協力ありがとうございます。

○伊丹製薬 株式会社
○ウェストレイクホテル可以登楼
○税理士法人 淡海総合会計
○大津公証人会　白髭博文
○大溝工業 株式会社
○株式会社 大山建設
○岡本アルミ建材 株式会社
○川島酒造 株式会社
○川島織布 株式会社
○有限会社 クリエイト・マエダ
○株式会社 Grow—S
○株式会社 桑原組
○有限会社 宏和商事
○税理士法人 小畑会計事務所
○株式会社 才川食品店
○佐治タイル 株式会社
○株式会社 澤村
○株式会社 シグマックス
○清水安三記念館
○有限会社 白浜荘
○新旭電子工業 株式会社
○杉橋建設 株式会社
○ソエダ 株式会社
○高島鉱建 株式会社
○田中マネジメント事務所
○株式会社 TADコーポレーション
○鉄屋商事 株式会社
○寺子屋まなざし童心塾
○有限会社 天平フーズ
○株式会社 戸井薬局
○とも栄 藤樹街道本店
○株式会社 ナカサク
○ナカショウ 株式会社
○株式会社 中田運送
○中村印刷 株式会社
○株式会社 中村測量設計
○ニッケイ工業 株式会社
○八田建設 株式会社
○有限会社 馬場塗装
○戸次会計事務所
○株式会社 ホリゾン
○有限会社 丸三旅館
○株式会社 ミヅホ工芸
○株式会社 森下工業
○株式会社 ヨシダヤ

（五十音順）